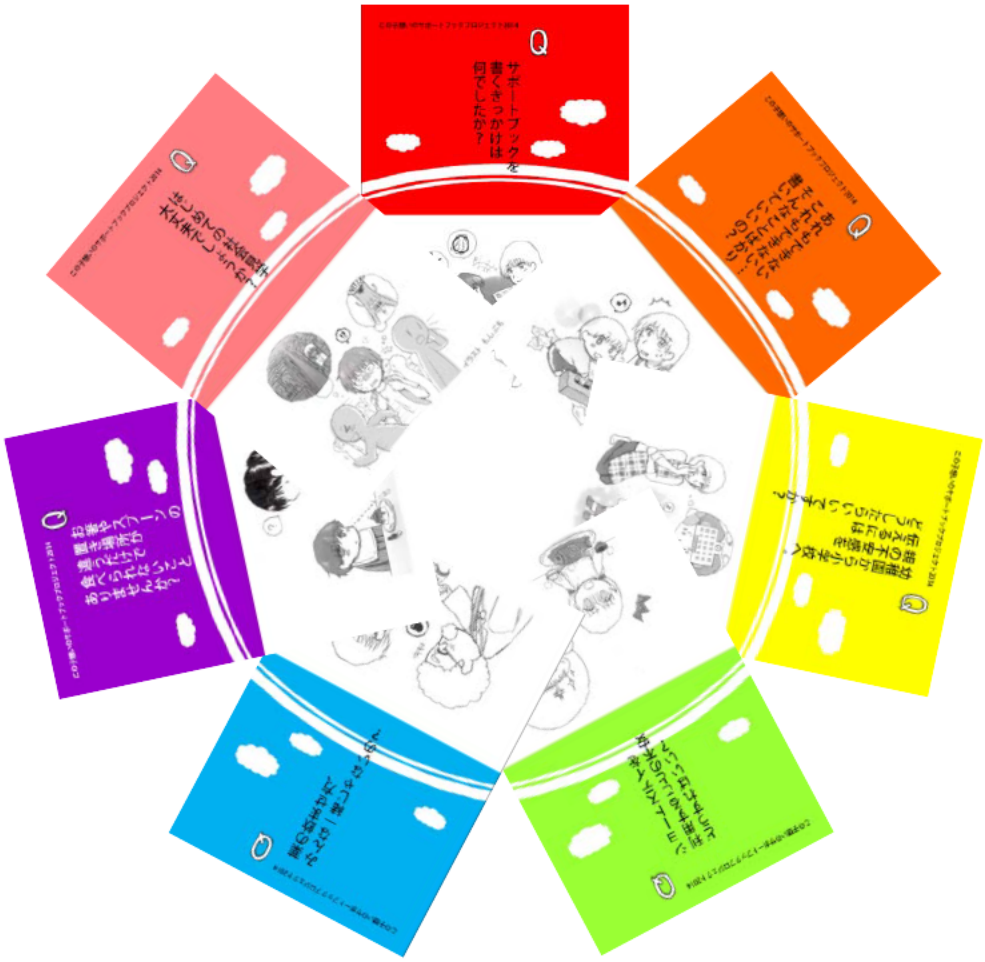
# この子想いの
# サポートブックプロジェクト
# 活動報告書




皇學館大学
障がい当事者のお母さん（NPO法人エールの会）
松阪市社会福祉協議会
そして、サポートブックで気持ちを伝えあうみんなと・・・

# 01活動のきっかけと目的

松阪版サポートブックってご存知ですか。

サポートブックとは、障がい者（児）の特徴や特性、コミュニケーションのとり方や癖、さらに様々な場面での反応の仕方などを、保護者（父母・本人をよく知る者）が、具体的に見やすくまとめたもので、障がい者が支援を受ける際に支援者に読んで利用してもらう携帯型のツール（道具）です。

障がい者本人がサポートブックをいつも携帯し、支援者に読んでもらうことによって、自分で伝えられないこと等も相手に理解してもらいやすくなり、心の通い合う支援が受けられるようになります。
魅力的なサポートブックですが、
まだまだご存知でない方が多く、活用にもいくつか課題があります。例えば、

**「いつ書けばいいの？」「誰に見てもらうの？」「使い方がわからない」「書くのが難しそう」「なかなか広まらない」**

などです。そこで、私たちはみんなで考えあいました。そして、

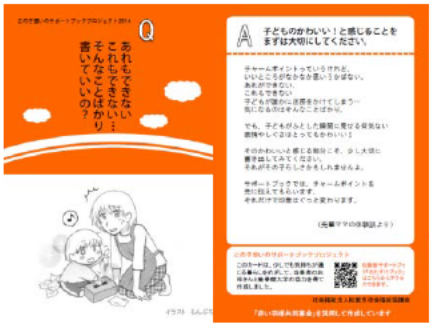
**もっと多くの方へサポートブックを知ってもらうために、一部分だけでも、手に取ってもらえるカードをデザイン**

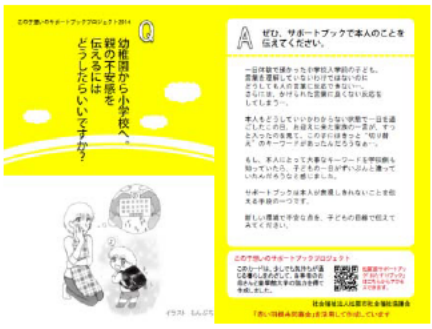
することにしました！

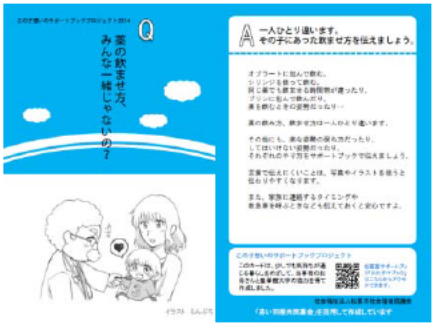
# 02メンバーや地域との連携

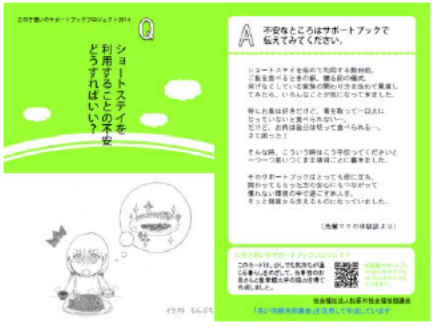
この子想いのサポートブックプロジェクトは、少しでも気持ちが通じあう暮らしをめざして、皇學館大学の学生（3名）、障がい当事者のお母さんたち（NPO法人エールの会）と、松阪市社会福祉協議会、で取り組んでいます。

この子想いのサポートブックプロジェクトは、赤い羽根共同募金を活用して作成しています





## 03主な取組内容と成果

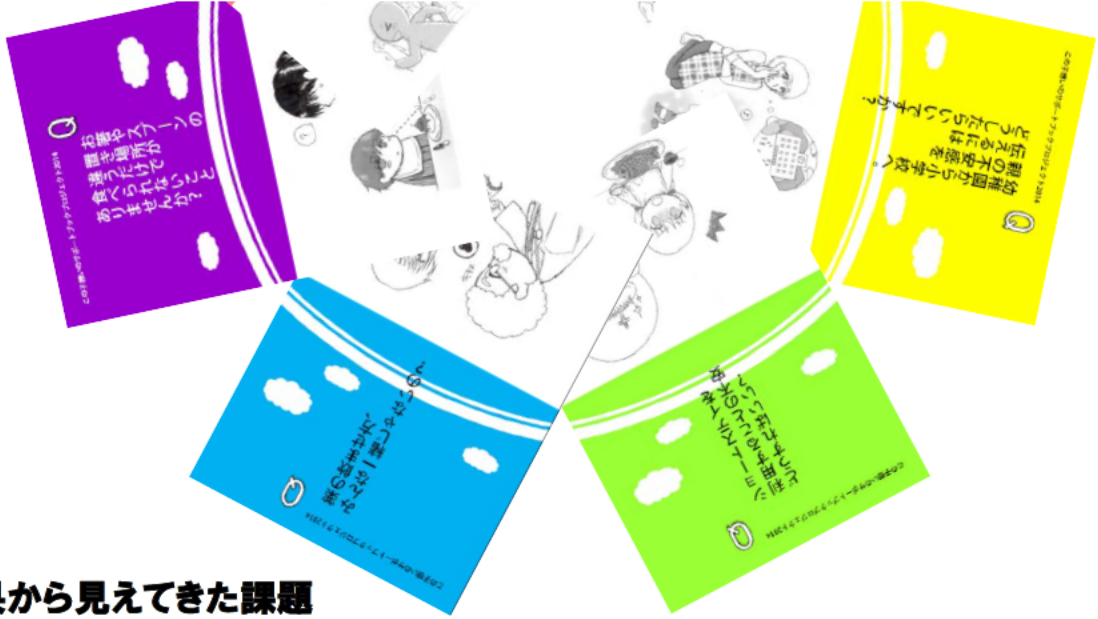
カードには、あがっていた課題を、Q＆Aで実際に関わられているお母さんたちの声から応えつつ、サポートブックの一部を、サンプルとしてくっつけてみました。

そして、思わず集めたくなるような、そんなデザインを目指しました。

そうやってできあがったのが、今回のカードです。

お母さんたちと一緒に考えながら、学生がイラストを描かせていただきました。
イラストを描くにあたっては、誰にでもわかりやすい絵、ということを意識しました。

そして、もう一つのデザインとして、カードをレインボーカラーにしてみました。
すべてのカードには、ラインが入っていて、7色つなげると、サークル（わ）になります♪

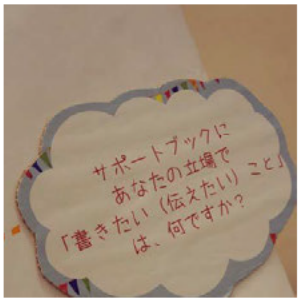


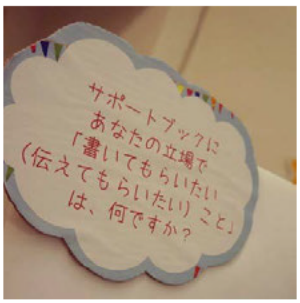
## 04成果から見えてきた課題

平成26年度社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」において、取組を紹介させていただく機会をいただきました。

発表では、サポートブックの認知度をお聞きしたところ、ほとんどの方がご存じではありませんでした。

それでも多くの方にブースへの関心をもってもらうことができました。





## 05将来の夢

この子想いのサポートブックプロジェクトは、何より使う本人の気持ちを中心にしながら、身近な存在や関係機関をはじめ、かかわる全ての人々の気持ちが通じあう暮らしをめざして、これからも「この子想いの「わ」を広げていきたいと思います。

具体的には、教育機関や、長期休暇時の日中一時預かりの取組などと「わ」をつなげていければと考えます。

この子想いのサポートブックプロジェクト